親鸞聖人750回大遠忌

朋友（ほうゆう）
第4号
2010(平成22)年
3月31日発行
発行所
京都市下京区堀川通花屋町下ル
仏教壮年会連盟広報委員会
題字：理事長 幸田昌三

「朋友」とは、同信のなかま。2008(平成20)年4月の仏教壮年会連盟発足にあたり、仏壮会員が力を合わせ、ともに歩みを進めていこうという願いから名づけられました。

浄土真宗本願寺派
仏教壮年会連盟

結成大会

―お念仏申す朋友の輪が拡がる―

二〇〇九(平成二十一)年十月十日

仏教壮年会連盟　理事長　幸田昌三

ご門主様のご臨席を仰いで、仏教壮年会連盟結成大会を御影堂で開催することができました。

橘会長、池田副会長、全国門徒総代会会長、全国仏教壮年会議歴代会長、各教化団体長といった来賓の皆さんに暖かく見守られながら、真新しい「仏教壮年会連盟旗」を先頭に、各教区の連盟旗が入堂して、勤行の後、「仏教壮年会連盟 綱領」を全参加者で高らかに唱和したときの感激を、私は生涯忘れることができません。結成大会にあたり、ご門主様より、「これを機会に、壮年会活動が一層充実し、朋の輪が拡がっていくことを念願いたします」とのお言葉をいただきました。私たちはこのお言葉と綱領の精神を深く心に刻んで、今後の活動に取り組まねばなりません。

特集 ―仏壮の組織拡充にむけて―

仏壮活動のすべての活動の根幹にお聴聞がなくてはならないのは言うまでもありませんが、次の諸項目について、各教区仏壮、組仏壮、寺院仏壮において、ぜひとも取り組む課題にしていただきたいと思います。

①自主・自営とは具体的にどうすることか。
②活動の活性化をはかるとはどういう内容を実践することか。
③他の教化団体と手を携えていくとは具体的に何をどう行うことなのか。
④お念仏を申しながら、心豊かに生きる社会の実現をめざすとは、どういう歩みをすることなのか。

大きな課題でありますが平凡な安泰に過ぎるのでなく、岩盤を切り拓く意欲を結集しなければ前進することはできません。

混迷する現代社会のなかで、課題に取り組もうとすれば、ややもすれば諦めや腰砕けという内面の敵に襲われます。親鸞聖人の「世のなか安穏なれ、仏法ひろまれ」という願いを、全会員が「私」の指針にして、日々お聴聞の日暮しをさせていただきたいものであります。

合掌

仏教壮年会連盟 綱領

われわれ仏教壮年は、
自らの生き方を
親鸞聖人のみ教えに聞き、
ともにお念仏申す朋友の
輪を拡げ、
心豊かに生きる社会の
実現をめざします。

安芸教区

住職、仏壮に任せなさい

安芸教区　沼田組　教雲寺住職
藤井聡之

仏壮活動を見ていると、『お寺は交差点のようなもの』と、感じることがある。十人十色の人生を歩んでいる人々が、たまたま東西南北から交差していく様は、仏壮会員同士の出遇いの様とよく似ている。

順調に見えた会社が急傾斜した人、九州・関西と単身赴任に振り回された人、両親の老いと孫の誕生が重なった人、妻のリハビリに寄り添っている人・・・と、ざっと思い浮かぶ仏壮会員だけでも、実にさまざまである。

『仏壮活動は、ひとり一人の経歴や特技が違っていても、比べっこなしで楽しい』と語った会員がいた。

その言葉に、阿弥陀経の「青色青光黄色黄光・・・」を思い浮かべる。

一方で、会員は、その社会経験の豊富さから寺院活動に対して率直な意見も出る。『対門信徒への情報提供が枯渇すると死活問題』『寺の全てが公開されるべき』『住職一人で何事もやろうと思ってはダメ』などと、実に手厳しい。

しかし『自分たちのお寺だから』という気持ちが心底感じられ、うれしい。

その活動は住職の発想を超えている。裏山に、植林して四十年経過する檜林がある。定期的な間伐をしていない『荒れ山』である。その檜林を再生させ、百年後は本堂の柱にしようという計画。名付けて『山林整備事業』。また、年に一回、本堂のタタミ干しから、天井拭き、高所作業車を使ってのイチョウの枝おろしなどと、気になるところを見つけては手を入れる。これを『環境整備事業』と名付け、五十名近くが汗を流す。企画、説明、段取り、仕訳け…と、見事と言うほかない。

そして『おとこの寺子屋』、これは仏壮研修会の公開講座版である。テーマは役員会で決定する。昨年が『救急法とＡＥＤ使用法』、今年は『認知症について』で、外部から専門家を招き、開催している。住職の話はオリンピック並みで、四年に一回程度で充分なようだ。

教雲寺仏壮もやがて成人式を迎えるが、結成当初、『仏壮活動の意義について』というテーマで住職が話したこともあったが、「何と押しつけがましかったこと」と、今は思う。

いつの間にか、法座でも男性の割合が三割になった。法座で顔を合わせた仏壮会員同士が、あれこれと活動の打ち合わせをすることも。私が近付くと、『住職、仏壮に任せなさい』と言われそうである。

この頃は、仏壮活動の邪魔をしないことが住職の役目のようにも思える。頼もしく、そして一緒に活動していて、みんな不思議と元気になる。

滋賀教区

四世代が集う「寺まつり」

滋賀教区 仏教壮年会連盟 常任理事
森野義廣

愛知下組妙安寺仏教壮年会の活動の一端を紹介します。

仏壮は、設立して三十数年経ちますが、七年前の親鸞聖人七百五十回大遠忌法要を契機に、より一層活発な活動になりました。

主な活動は、「花まつり」「研修旅行」「境内の葉刈り」「寺まつり」「永代経法要・報恩講法要の立華」「除夜会法要」等々で、仏教婦人会と合同で推進しています。

ここでは、「寺まつり」の内容を少し紹介します。毎年、七月下旬の日曜日の夕方より、本堂において、正信偈をみんなでお勤めし、ご住職のお話を聞き、境内で開催しています。

当日の午前中、仏壮は境内の葉刈り、仏婦は清掃・除草作業をしますので、その慰労会も兼ねています。

当日までに、食材の収集や下ごしらえ等をしますが、笑い声の絶えない準備になります。

今年の出店は、手づくりの餃子、カレーライス、ハスの塩焼き、冷やしうどん、野菜炒め、金魚すくい、焼きトウモロコシ等です。

門徒以外の方にも声を掛け、二百名くらいの集まりになり、特に手づくり餃子が人気で、千五百個作りますが、早くに無くなります。三十坪余りの境内に、二百人も集まると大変賑やかで、子どもたちの声が響いています。

以前、お寺の境内は子どもの遊び場で、おにごっこ、めんこ、ビー玉、カンけり等々で賑やかだった思い出話がよく聞こえてきます。しかし現在、子どもたちの姿はほとんど見られません。

また、大人の社会においても、仕事に追われ、交流が希薄になりつつあると思います。

この「寺まつり」を通して、幼少の頃からお寺に親しみを持てる子の育成と、四世代が集える交流の場になることを願って、今後も活動を続けたいと思います。

東北教区

「新たな心で」

東北教区 宮城組 専能寺 仏教壮年会会長　伏見惣次

二〇〇八（平成二十）年四月一日、念願の仏教壮年会連盟が結成され、二〇〇九（平成二十一）年十月十日本願寺御影堂にて、ご門主様ご臨席のもと、全国より六百名の同志が参加し厳粛な中にも盛大に「結成大会」が開催されました。

参加者全員が、唐門の牡丹の紋様をモチーフにした鮮やかな緑色の式章を身に着け、連盟化の「新たな始まり」に相応しく各々が心新たに自覚と責任を確認し、皆の心がひとつとなった充実した大会であったと思います。

私ども専能寺仏教壮年会は、二〇〇三（平成十一）年に六十歳未満の会員で若返りを果した組織ですが、この度の連盟化を受けて会員一人ひとりが活動の主体となるようにとの想いを込めて、先ずは七人の役員で新しい式章をそろえさせて頂きました。

また、本年二月の「平成二十一年度総会」においては、六十八名の全会員で新式章を取り揃えることを提案し、毎年春彼岸に勤まる「先祖代々永代経法要」には皆で着用し「新たな始まり」の一歩にしたいと考えております。

記念すべき仏壮連盟化を受けて、私自身が考えるのは、「新たな始まり」とは自主、自営、自立の活動を推進すること。

そこで、六十五歳以上の会員から成る「正信会」（仏壮OB会）や、世代毎に三つに分かれる仏教婦人会等と従前以上に積極的に交流を図り、専能寺の一層の組織の充実に取り組みつつ、教区仏壮の組織拡充に貢献できるよう努めてまいりたいと考えています。

岐阜教区

新たな取り組みが仏壮の輪を拡げる 初めてのチャリティーゴルフ開催

岐阜教区 仏教壮年会連盟　平田忠彦

岐阜教区仏教壮年会連盟では、連盟化以来教区仏教壮年会連盟の役割と活動を、仲間を拡げること、教区の教化団体の中核となる活動を進めることとして取り組んでいます。

「仏教壮年会連盟結成大会」から帰った二〇〇九（平成二十一）年十月十三日、新たな取り組みとしてチャリティーゴルフコンペを開催いたしました。このコンペは、「特定非営利活動法人ＪＩＰＰＯ」並びに新聞社への寄付及び教区仏壮や有縁の僧侶・門信徒等と親睦を目的として行ったもので、三十五名が腕を競いました。

成績は、シングルの会員からオービーやチョロの連続で倍のスコアの参加者までであり、内容も多彩で和やかでありました。普段の顔ぶれとは異なって、仏壮会員や他の教化団体、僧侶に加え、普段集まらない仲間が広く集まり、活動の広がりを深めたところであります。

このコンペでは、メンバーそれぞれが会費の中に千円程のチャリティーを負担していただき、集まった五万円余りを寄付金といたしました。寄付を行った「岐阜新聞」には、翌日写真入りで大きく採りあげられました。

また、一月十日には、本山の御正忌報恩講に研修旅行として参拝した折、白米五十キロを「ＪＩＰＰＯ」に寄付をしてまいりました。これは、ＪＩＰＰＯの趣旨である「すべてのものは互いに関係しあい支え合っているという仏教の基本理念」を仏教壮年会活動の中で取り組んでいくためであります。

また、岐阜教区では、研修会や研修旅行を始めとした事業の拡充はもとより、各教化団体との連携を深めており、よりいっそう基幹運動の中核としての役割を担う取り組みを進めています。

いま、社会は混沌とし、豊かな物質文明の中でも不安と不満が渦巻き混迷を深めており、宗門に課せられる役割を果たすときなのではないでしょうか。

岐阜教区仏教壮年会連盟の取り組みが、仏教壮年会活動の輪を拡げること、ひいては念仏の輪が広まること、そして社会にもアピールすることで、親鸞聖人が願われた「世のなか 安穏なれ」というお心を体し、少しでも世のなかに貢献できればと思います。

大遠忌法要を目前に控えた今、仏教壮年会の役割はさらに大きくなっていくものと思っています。

二〇一〇(平成二十二)年度 仏教壮年会連盟 活動方針・事業計画

一. スローガン

朋友の輪を拡げ
いのちかがやく世界を

二. 活動方針

Ⅰ.「親鸞聖人七五〇回大遠忌についての消息」を体し、仏教壮年としての新たな始まりとして自主・自営の活動を進め、組織の充実発展に向けた具体的な取り組みを進める。

Ⅱ.「仏教壮年会連盟 綱領」の精神に沿って、宗門の基幹運動(門信徒会運動・同朋運動)を一層強力に推進する中核として積極的な活動を展開する。

三. 重点目標

(1)あらゆる社会の問題に関心を持ち、念仏者としての行動を起こす。

(2)大遠忌に向け、「寺院仏壮」五〇%以上、「組連盟」全組結成をめざす。

(3)「仏教壮年会連盟会員式章」・「仏壮バッジ」の着用を奨励する。

(4)二〇一一(平成二十三)年「全国仏教壮年大会」開催を視野に、壮年層の結集をめざす。

四. 事業計画

(一)各委員会活動をもって推進する事項

(ア)組織拡充委員会

①教区基幹運動推進委員会「組織教化活性化専門部会」等において、仏壮の組織拡充課題が取り組まれるようはたらきかけるとともに、その進捗状況の点検を行う。

②寺院仏壮結成促進にあたり『一通の手紙から』等の教材を活用した活動を提案し推奨する。

③教区における「壮年の集い」の実施を支援する。

④連区連絡協議会の充実をはかる。

⑤各教化団体との積極的な交流をはかる。

⑥「単位会結成に向けた研修会」の開催に向けた取り組みを行う。

(イ)研修委員会

①幹部養成研修会を開催し、教区・組の幹部を養成する。

②教区及び組における若年会員の育成を支援する。

③教区及び組における「基幹運動研修会」を実施するとともに、研修内容の研究と提案を行うことで支援する。

④寺院・組における学習会の方法を研究し、提案と奨励をする。

(ウ)広報委員会

①機関紙『朋友』を発刊する。(年二回)

②連盟ホームページを運営する。

③各地の仏教壮年会活動を調査し、内外に向け発信する。

(エ)教材委員会

①教材の研究開発を行う。

②各教区・組・寺院で活用できる教材の検討を行う。

③「仏教壮年会連盟会員式章」・「仏壮バッジ」の普及促進に取り組む。

(二)連盟(教区・組含む)として推進する事項

(あ)全寺院「子どものつどい」―キッズサンガ―に積極的に参画する。

(い)『朋友―浄土真宗入門のてびき―』・『本願寺新報』・『大乗』の購読促進と普及・活用に取り組む。

(う)地方連研及び中央教修への参加、並びに中央仏教学院「通信教育」(入門課程)受講を奨励する。

(え)特定非営利活動法人「ＪＩＰＰＯ」の活動に参画する。

(お)ダーナ活動に積極的に取り組む。

(か)「第三十回 千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」【二〇一〇(平成二十二)年九月十八日(土)】への参拝を奨励する。

(き)慶弔規程についての周知をはかるとともに活用をすすめる。

(く)その他必要なこと。

(三)会員の生活実践を通して推進すること

①「浄土真宗の教章(私の歩む道)」のお心を味わい、お念仏の生活を送る。

②次世代への伝承につとめる。
Ⅰ家族とともに仏前にてお礼をする。
Ⅱ寺院における法要行事へ家族をさそって参加する。
Ⅲキッズサンガへの参画をする。
Ⅳ実家を離れた子や孫に、ご本尊「いちょう」「きく」等を贈り、信仰生活の環境作りを支援する。

③知人友人を誘い、朋友の輪を拡げる。

④寺院での初参式・成人式・仏前結婚式等の行事を奨励する。

⑤ビハーラ活動に積極的に取り組む。

⑥新「食事の言葉」の周知に取り組む。

五. 中央における行事計画

①評議員会【二〇一一(平成二十三)年一月二十九日(土)～三十日(日)】

②理事会

③各種委員会(組織拡充委員会、研修委員会、広報委員会、教材委員会)
※各第一回委員会・全体会【二〇一〇(平成二十二)年六月十二日(土)～十三日(日)】

④仏教壮年会連盟活動推進講師会

⑤幹部養成研修会【二〇一一(平成二十三)年二月十二日(土)～十三日(日)】

以　上

山口教区

「仏壮会ひろまれ」
―考えるより行動に移せ！―

山口教区 仏教壮年会連盟 理事長　山根明弘

たくさんの古い資料を整理していると一九九五（平成七）年の『全国仏壮会報』、さらに教区及び組の会報が出てきて、当時の会長や教区連盟理事長の挨拶の中に次のような言葉が述べてありました。「少子・高齢化」「過疎化」「若い世代を寺へ」そして「単位会の設立」等々…十五年経過した今も同じことを口にしている現状を皆様方はどうお思いでしょうか。

さて単位会の設立及び登録に関して山口教区の取り組みと状況を報告いたします。まず取り組む姿勢のより強い意識を自ら持ち、関係者等に常々お願いする。また、教区大会及び総会等の大きな場で必ずこの問題の協議会を開く。組長さんや組の会長さんに立ち上げ会を要請願い、自らも出向しサポートする。先頭に立っていただく強いリーダーの存在も望まれます。

二〇一〇（平成二十二）年度は連盟も連区単位であるがサポートに就くとお聞きして大変心強く思っております。

寺院の活性化はもとより、仏壮の組織の必要性を感じ取っていただき、ぜひとも全寺院に仏教壮年会が拡まりますことを念じる次第でございます。残された任期も、あと一年となっております中、もはや考えるより行動に走れ！ではないでしょうか。

全教区の登録数アップの先頭を、山口教区はめざそうと思っております。

合掌

―教区での組織の拡充活動―

東京教区

心の支えを共有化する場面づくり
―「千葉組仏教壮年会」発足―

東京教区 千葉組仏教壮年会　星原光博

千葉県は東西南北の各地域で、生活環境や、社会的機能等が変化に富んだ営みのある所です。人口六百八十万強であり、本派千葉組はここを一組でまとめております。従来仏壮は組の指導を頂きながら研修会等を実施してきましたが、ここ数年来もっと主体的な組織として仏壮会結成の機運が高まり、平成二十一年四月十八日築地別院に道俗百六十名が集結し、「千葉組仏教壮年会設立大会」を開催しました。単位仏壮会が少なかったことや、東西南北、変化のある営みの中で各寺院仏壮の実情も色々と異なることから、門徒であれば男女を問わず年齢を問わず、一人でも気軽に参加できる形として、「千葉組仏教壮年会」として発足しました。対外的な窓口や、組全体のとりまとめは当会が実施しますが、単位仏壮会と並列の位置づけで千葉組会にも了承して頂きました。

昨秋は皆で宿坊に一泊し、聖人ゆかりのお寺を巡拝しました。住職と門徒の強い絆と共に、些細な事であっても悩み、苦しみ、喜びを語りあい、共有化できるような温かい横の繋がりが大切であります。門徒だけでなく厳しい変革社会の中を生きる一般社会人に対して現実社会の中で心の支えを共有化する為の場面づくりができるのは社会の第一線で生きてきた（生きている）仏壮集団に相応しい活動だと思いますが、先ずは、単位仏壮会結成の機運を高めていこうと思います。

親鸞聖人七五〇回大遠忌法要を終えて

宮崎教区

宮崎教区 仏教壮年会連盟
理事長 松山誘季

宮崎教区の親鸞聖人七五〇回大遠忌法要が、去る一月二十七日より二月二日までの一週間、本願寺宮崎別院にてとり行われました。寺族、門徒が一体となり、まさに教区をあげての大イベントでありました。

なにしろ五十年に一度のことであります。全てが手さぐり状態の中、計画・準備の段階では指示も一転二転、幹部の人たちの思案やご苦労の程が伺われました。私も仏壮理事長として実行委員となり、その一端を担えたことの喜びと感動は生涯忘れないことでありましょう。

特に、市街地中心部を総勢五百名でパレードしたことが印象的でありました。四つのパートに分け、それぞれ先頭に仏壮が整列し、拡声器でこのパレードに込めた思いを伝える者、仏旗を掲げる者、横断幕を持つ者、浄土真宗本願寺派としての誇りを感じながら、皆、胸を張って歩きました。

八〇〇回大遠忌法要の頃、そしてそのずうっと後も「なもあみだぶつ」がどのように伝えられていくのかを考える時、やはりじっとしてはいられないという思いにかられるのであります。

私たちの仏教壮年会も連盟となって早二年になろうとしています。各寺に必ず仏壮組織を作ること、それが組へ、教区へとつながっていくことが私の大きな目標であります。

今回の法要がご縁となった門徒の方もいると思われます。これを機に益々組織活動が活発になり、一人でも多くの人が安穏な人生を送ってくださることを心から願っております。

合掌

第四連区 第九回仏教壮年会員研修会開催にあたって

備後教区

備後教区 仏教壮年会連盟
理事長 石井輝美

二〇一〇(平成二十二)年十月二十三、二十四日福山市内の「アルセ」(福山市沖野上町)を会場に、第四連区(中・四国)会員研修会を開催いたします。

今大会は、二〇〇八(平成二十)年四月に仏教壮年会連盟が発足して初めての会員研修会になります。

仏教壮年会連盟は、自ら積極的に参加し運営していく自主・自営の連盟として発足しました。

綱領に、「われわれ仏教壮年は、自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、ともにお念仏申す朋友の輪を拡げ、心豊かに生きる社会の実現をめざします」とあります。全ての思いが、この綱領のなかに網羅されています。事あるたびに繰り返し唱和し、実践していかなければなりません。

この研修会は、これからの仏教壮年会の歩むべき道を確認し、提案するところでもあります。

備後教区(福山市)は中国地方の浄土真宗発祥の地でもあります。福山市鞆町の隣、沼隈町山南の光照寺を拠点に、明光上人の一門により、教線が各方面に拡まっていったところです。

また、全国的に話題になりました風光明媚な鞆港(とものこう)は、NHK龍馬伝のロケ地(龍馬率いる海援隊のイロハ丸が沈没した所)でもあります。

多数のご参加を、心よりお待ちしています。

「第一連区仏教壮年大会」に向けて

国府教区

国府教区 仏教壮年会連盟
理事長 小堀靖之

国府教区では現在、本年七月十七日から十八日にかけて当教区担当で開催予定の「第一連区仏教壮年大会」の準備中であります。

教区内の会員の皆さんには、この大会をご縁として親鸞聖人と恵信尼さまが生活されたこの越後に誇りを持ち、み教えを学び、次の世代に伝えていきましょう。また、他教区から来ていただく皆さんには、心からのおもてなしをしたいと思っております。

越後には聖人に関する伝説も数多くあり、私たちも、毎年敬愛の念で国府別院境内の冬囲いを行っております。

聖人は越後地方で暮らす貧しい人たちの生活、また洋々たる日本海や厳しい冬を見て、多くのことを感じられたと思います。そして関東へ赴かれ、それ以降は布教と著述に専念されました。まさに越後での七年間は聖人にとって黎明の時間であったのではないでしょうか。

連区大会に参加される皆さまには、この頃の聖人と恵信尼さまの心情を思いはかって、越後の旅を堪能していただきたいと思います。

法話

「無条件のすくい」

仏教壮年会連盟 活動推進講師
小林顯英

阿弥陀様の〝すくいのはたらき〟を船に譬えられ、「無条件でのせて、必ず光明の世界へ生まれさせてくださる」と聞かせていただいております。昨年、入院中に〝無条件のすくい〟ということの有難さを改めて気付かされました。

頸椎の手術でしたので、かむ、飲み込むというのが、大変苦痛でした。

三十数年通っていた寿司屋が閉店することになり、許可を得て病室まで出前をしてもらうことになりました。私の好物がズラリと並べられています。

合掌し、食前の言葉を言おうとして、〝ハッ〟と気付かされました。入院以来、食事が苦痛で仕方のなかった私は、合掌することも、食前・食後の言葉も言ってなかったのです。

手を合わせるということが、お念仏申すということが…もし、ひとつでも〝すくい〟の条件であったならば、間違いなくもれてしまうのは、他の人ではなく〝この私〟なのです。この私を見抜いたうえでの〝無条件のすくい〟、勿体なく、有難く聞かせていただくことであります。

仏事解説——②

仏旗

仏旗は、六金色旗（ろっこんじきき）ともいい、仏教徒の旗印であり、仏様の限りない慈悲（じひ）を表わしています。

米陸軍オルコット大佐が、セイロン（スリランカ）で仏教に出会い、帰依（きえ）して『涅槃経（ねはんぎょう）』をもとにデザインをし、日本には一八八七（明治二十）年に伝えられました。

一九五〇年スリランカで「第一回世界仏教徒会議」が開かれ、その時正式に「国際仏旗」と定められ、以来世界中の仏教国で掲げられています。

『涅槃経』に「お釈迦様が入滅（にゅうめつ）されたとき、そのお顔から美しい光が放たれた。その光は青・黄・赤・白・波璃（はり）・珊瑚（めのう）で……」とあることに由来しています。

仏旗は青・黄・赤・白・樺（淡紅）色で表わされており、珊瑚は樺（淡紅）色ですが、波璃は水晶のことですから、本来無色透明です。しかし、ほかの色をよく映し出すということで、五色を混合することによって表現されています。

食事の際に一人ひとりが「ご恩」を味わえるように、新「食事のことば」ができました。
従来から親しんでこられた方も、いままであまり口にされてこなかった方も、
この新「食事のことば」を自ら声にだして、深く尊い「ご恩」を喜ばせていただきましょう。

新しい「食事のことば」ができました

［食前のことば］（合掌）
●多くのいのちと、みなさまのおかげにより、このごちそうをめぐまれました。
○深くご恩を喜び、ありがたくいただきます。

［食後のことば］（合掌）
●尊いおめぐみをおいしくいただき、ますます御恩報謝につとめます。
○おかげで、ごちそうさまでした。

編集後記

仏壮連盟も昨秋結成大会を終え、新しい年を迎えました、今号も前号に引き続き「なぜ仏壮が必要なのか」という特集を掲載しています。

「世のなか安穏なれ　仏法ひろまれ」と願われた親鸞聖人のお心に添えるよう、この機関紙を通して、全国の情報等も交えながら、朋友の輪を広げることができればと思うものです。

九歳の親鸞聖人は、「明日ありと思う心のあだ桜、夜半に嵐の吹かぬものかは」という決意で、お得度に臨まれたと伝えられます。今日、今を大事にしたいものです。

仏教壮年会連盟広報委員　小峰光紀

いっしょに『朋友』を作りましょう！

本紙『朋友』では皆さまからのお便りをお待ちしております。
ご意見ご感想の他、ご自分のお寺や組の活動紹介など、どしどしお寄せください。
また、仏壮活動に関する写真やスケッチも大歓迎。いっしょに『朋友』を作っていきましょう！

［宛先］
仏教壮年会連盟事務局
〒600-8358　京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派宗務所内
TEL：075-371-5181（代）　FAX：075-351-1211
メールアドレス：bussou@hongwanji.or.jp　連盟ホームページ：http://www.hongwanjibussou.jp/
（名前・連絡先等をご記載のうえ、郵送、ファックス、メールにてお寄せください。）